

こまめな水管理と適期収穫で 登熟向上・高品質米生産を!!



新潟地方気象台発表(7/30発表)による「予想される向こう1か月の天候」によりますと、平年に比べ晴れの日が多く、平均気温・日照とも高い確率が50%、特に第1週目は高い確率70%と引き続き暑い日が続く見込みです。

1. 今後の管理のポイント

- 出穂前後(出穂・開花期)はイネが最も水を必要とする時期です。早期落水等で土壌水分が低くなると整粒歩合が低下する原因につながるるとともに「乳白粒・基部未熟粒・胴割粒」の発生が助長されます。カドミウム吸収抑制対策と合わせて出穂後25日の湛水管理に努めましょう。
- 今後も高温が続くことが予想されます。湛水期間中でも溜め水等での水温の上昇は根腐れを起こす原因になります。地域の取水状況に応じて、こまめに水の交換を行いましょう。
- 今年は予察状況からもカメムシの発生が多く推移しております。個人防除を予定している地域では散布時期を逸さないよう、地域(営業所)毎の防除計画を確認し適期防除を徹底しましょう。
- 台風情報(フェーン)に注意!⇒出穂期から出穂7日前までは、最も風害(白穂・粃の汚損等)の影響が大きい時期となります。台風情報には十分注意し、強風フェーンが予想される場合は穂の水分蒸散防止のため速やかに湛水しましょう。

2. 適期収穫

「適期収穫」することは高品質・良食味米生産には不可欠な条件です。早刈りは青米・未熟粒の混入増加や収量低下の原因となり、刈遅れは着色米・胴割米が増加して品質低下を招きます。収穫時期は登熟期間の気象条件、特に気温に左右され高温下では登熟が促進され適期も早まります。粃の黄化状況や「積算気温」を参考に刈取り適期を判断しましょう。

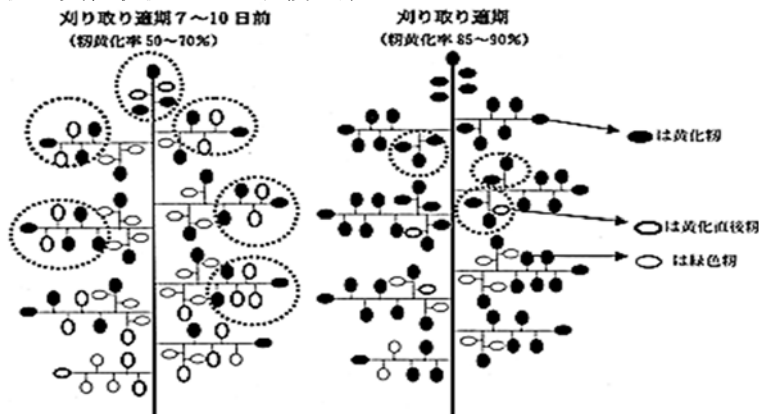
(1) 積算気温による収穫適期

●連日の高温で出穂期が早まり、コシヒカリでも既に出穂期を迎えている圃場もみられます!

品 種	収穫適期目安 (出穂後積算温度)
早生(こいぶき、ゆきん子舞、わたぼし等)	975℃
中生(コシヒカリ、こがねもち)	1000℃

*収穫適期は、出穂後の日数や日平均気温の積算値からおおむね推定できます。(参考:裏面刈取適期早見表)
*登熟期の気温も高くなる見込みです。登熟後半が高温条件となって粃水分の低下が早く、立毛胴割れの発生が懸念される場合は、収穫開始を上記俵より50℃程度(2日程度)早めましょう。

(2) 粃の黄化状況による収穫適期



図中の点線内の粃(上・中位1次枝梗粃)が黄化した時が刈取り適期7~10日前

図中の点線内(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗粃)が黄化した時が刈取り適期

(注) 粃黄化の診断は1次枝梗が9本程度の平均的な穂について行う。調査本数は10穂程度必要である。8本以上が該当すれば刈取り適期

